

レアメタル専門
商社アドバンスト
マテリアルジャパ
ン(AMJ、本社
・東京都千代田区
は2月4日に創立
20周年を迎えた。
レアメタル・レア
アース需要増加を
追い風としなが
ら、グローバル展
開などトレーディ
ング事業を強化し
て成長を続けてき
た。これまでの歩
みとともに今後重
視していく取り組
みは何か。福田聡
社長に聞いた。
(奥田 啓太)

「まず20年間支えて
いただいた取引先、株
主であるアルコニック
スをはじめとするステ
ークホルダーの皆さま
に感謝を申し上げたい。
また私自身は20

アドバンストマテリアルジャパン 創立20周年

福田 聡社長に聞く



「レアメタル・レア
アースのトレーディ
ング事業をベースとして
始まり、中国やシンガ
ポールでの現地法人設
立やタイ、台湾のリサ
イクル企業への出資と
積極的なグローバル展
開を行ってきた。その
中で、一人の人間が長
期的に取り組んでいる
ことが多く、レアメタ

ルにおいて重視してき
たことは何か。
「我々が取り組んで
いるのはレアメタル・

20年に中村繁夫前社
長から職務を引き継い
だが、前任者の築き上
げた土台をさらに大き
くさせて、次なる30周
年、50周年に向けて成
長し続けていきたい」
——これまでの歩み
について。

「レアメタル・レア
アースのトレーディ
ング事業をベースとして
始まり、中国やシンガ
ポールでの現地法人設
立やタイ、台湾のリサ
イクル企業への出資と
積極的なグローバル展
開を行ってきた。その
中で、一人の人間が長
期的に取り組んでいる
ことが多く、レアメタ

ル・レアアースのスペ
シャルリストとしての人
材も強みとなってい
きようまで安定供給を
心掛けてきた。国内主
要港をはじめ全国20カ
ルと違い価格ヘッジの
効かない品物ではある
が、相場変動リスクの
管してあり、需要家の
皆さまに安心してお使
マネジメントを行なう

「レアメタル・レア
アース」
「スぺシャルリスト」
「強み」
「全国に現物在庫、安定供給体制構築」

「中国+1」をベ
ースとしている。中国
はこれまでも、そして
これからも重要なパー
トナーだ。その関係を
維持した上で新たな供
給ソース開拓を進めて
いく。専門商社として
需要家のニーズに対し
てサプライチェーンを
はじめ最適な提案を
し、対応していく」
——レアメタル・レ
アアースの需要が高
まっている中、どの
分野に注力していく
か。

「AMJにとって伝
統的な強みである、合
金鉄・タンタル・タン
グステン・レアアース
・チタン・マイナーメ
タルには引き続き力を
入れていく。また、需
要増が今後も見通され
ている電動化や半導体
分野に対し、業務効率
化に積極的に取り組ん
でいく。カても積極的
に取組むつもりであり
、この分野についても
力を加えていく」
——最後に次の10年
に向けての指針を。

「親会社アルコニ
ックスとの連携につ
いては、

アドバンストマテリアルジャパン沿革

- 2004年 アルコニック及び中村繁夫氏の出資により、アドバンストマテリアルジャパン設立
- 07年 中国に合弁会社・廊坊関西磁性材料を設立
- 11年 北京現地法人・北京愛徳旺斯貿易を設立
- 12年 本社移転（港区赤坂より千代田区永田町へ）
- 13年 シンガポール現地法人・Advanced Material Trading設立
- 14年 タングステンカーバイトスクラップ回収拠点として、タイ バンコクに合弁会社・Yokoshiro Metal Trading Thailand設立(10%出資)
- 15年 レアメタルスクラップ回収拡大のためシンガポールにヤード設立
- 20年 福田聡氏が代表取締役社長に就任。中村繁夫氏は代表取締役会長へ
- 21年 タングステン資源の再資源化を目的に、台湾・Lianyou Metalsの20%出資権益を取得
- 21年 アルコニック100%株主となる
- 24年 設立20周年を迎える

「中国+1」をベ
ースとしている。中国
はこれまでも、そして
これからも重要なパー
トナーだ。その関係を
維持した上で新たな供
給ソース開拓を進めて
いく。専門商社として
需要家のニーズに対し
てサプライチェーンを
はじめ最適な提案を
し、対応していく」
——レアメタル・レ
アアースの需要が高
まっている中、どの
分野に注力していく
か。

全国に現物在庫、安定供給体制構築

「中国+1」をベ
ースとしている。中国
はこれまでも、そして
これからも重要なパー
トナーだ。その関係を
維持した上で新たな供
給ソース開拓を進めて
いく。専門商社として
需要家のニーズに対し
てサプライチェーンを
はじめ最適な提案を
し、対応していく」
——レアメタル・レ
アアースの需要が高
まっている中、どの
分野に注力していく
か。